

「東京真田町の会」会報

# 日本タボス

令和6年(2024年)1月25日



## ふるさとの誇り菅平高原

今夏、挑戦されたいかがでしょう。6時間半で二つの峰を縦走。

宿出発：ダボスの丘・峰の原高原・避難小屋・小根子・  
根子岳・四阿山・大明神沢・菅平牧場入口帰着

NO.

36

写真提供：会長 深町共榮

回 覧

趣 意 書

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃、傍陽小学校へのお力添えをいただき、誠にありがとうございます。

さて、傍陽小学校は、明治六（一八七三）年二月一日、当時の軽井沢村、曲尾村、上洗馬村の三村が協同して、実相院に金繩学校として開校いたしました。以来、校名の改称、分教場・支校の改廃、敷地の移転、校舎の新築等、幾多の変遷を経て、今日に至り、この令和五年二月一日を以て、開校百五十年を迎えます。

学校沿革誌によりますと、初代校長は相馬安次郎先生でありました。他に五名の教員がおられ、卒業生を送り出したのは三年後の明治九年のことです。爾来、数多の卒業生を輩出し、各界で広く活躍され、社会に貢献されておられます。

傍陽地域は、恵まれた自然と古い歴史に彩られた豊かな地域であり、古来、教育や文化、進取の精神を尊重する気風がございます。とりわけ、地域の学校である傍陽小学校には、皆様、格別の想いをお持ちと存じます。風景になじんだ立派な学び舎に、同窓、地域の方々が惜しめないご支援をくださる伝統は、学校への愛情と熱意の証と存じます。開校百五十年は、この美しい伝統と風土を地域を挙げて確かめ合い、未来に向けて「傍陽讃歌」を謳いあげる好機と存じます。

つきましては、傍陽の宝である子ども達のため、左記のように、有形、無形の財産を傍陽小学校に贈り、開校百五十年という大いなる節目に際会した使命と責任を果たしたい所存であります。何卒、皆様の絶大なる御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和五年八月吉日

上田市立傍陽小学校

開校百五十年記念事業実行委員会 委員長

中澤 祐太



各 位

記

- 一 記念事業
  - 記念運動会・風船飛ばし 五月二七日 於 学校
  - 参観日・全校写真撮影 九月一三日 於 学校
  - 記念音楽会・タイムカプセル埋設 十月二〇日 於 学校
  - 開校百五十年記念式典 十一月二三日 於 サントミュージー
  - 開校百五十年記念誌発行 三月末
- 二 寄付金 一口五百円を基準にご寄付をいただければ幸甚です。
- 三 方法 各自治会様においてお取りまとめをいただく他、実行委員会に直接ご連絡、ご寄付いただくことも可能です。
- 四 その他 事務局 傍陽小学校 電話〇二六八一七三一二三二二

「東京真田町の会」のホームページを探すには: キーワードに括弧「」内の文字を使って検索して下さい。  
 検索にかからない場合は <http://fukamachi1129.ec-net.jp/sanadamachi/> をご使用ください。



# もくじ

番号	表紙	題	頁
一	表紙	編集部	一
二	傍陽小学校開校百五十周年事業募金「趣意書」	同実行委員会	二
三	もくじ	編集部	三
四	会長就任にあたり	会長 (傍陽)	四
五	選ばれる上田市を目指して	上田市長	四
六	新たな故郷を目指して	上田市議会議員	五
七	地域の絆を未来の世代へ	真田地域自治センター長	五
八	九月に長・本原地域で豪雨災害発生	上田市議会議員	六
九	空き家が生まれ変わる	古市	六
一〇	―地域初シェアキッチンで賑わいの創出―	上田市議会議員	七
一一	真田まつりの姿に感じる地域の未来	齊藤加代美	七
一二	親しまれるJA 信州うえだ農業協同組合	真田地域自治センター地域振興課	八
一三	ふるさとの景色に癒されて	代表理事組合長	九
一四	ふるさとの明日を築く商工会	JA信州うえだ真田地区理事	一〇
一五	東京真田町の会 第三十六回総会・懇親会が、和やかに開催!	真田町商工会会長	一一
一六	地域活性化―ふるさと快活&できる状況づくり―	東京上田会会長	一一
一七	一般社団法人洗楓座代表理事・元千葉大学大学院准教授工学博士	山寄	一一
一八	傍陽讃歌―開校一五〇周年事業―	佐藤	一二
一九	百五十周年の節目	橋詰	一二
二〇	故塩沢和政元会長との思い出	文彦	一三
二一	追悼 故塩沢 和政様	西澤	一三
二二	理事就任にあたり	直記	一四
二三	ふるさと傍陽を離れて	中島	一四
二四	第三十六回総会および懇親会の報告	正江	一五
二五	会員皆様の近況	柴田小夜子	一五
二六	令和4年度会務報告書・同決算報告書・令和5年度事業計画	副会長 (菅平)	一六
二七	東京真田町の会の活性化に向けて	副会長 (戸沢)	一六
二八	東京真田町の会の活性化に向けて	副会長 (眞田)	一六
二九	同予算案・役員名簿・会則 細則の改正について	(傍陽)	一七
三〇	東京真田町の会の活性化に向けて	坂口 英一	一七
三一	東京真田町の会の活性化に向けて	上ノ山勝信	一七
三二	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
三三	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
三四	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
三五	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
三六	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
三七	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
三八	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
三九	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
四〇	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
四一	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
四二	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
四三	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
四四	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
四五	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
四六	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
四七	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
四八	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
四九	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
五〇	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
五一	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
五二	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
五三	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
五四	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
五五	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
五六	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
五七	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
五八	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
五九	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
六〇	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
六一	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
六二	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
六三	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
六四	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
六五	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
六六	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
六七	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
六八	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
六九	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
七〇	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
七一	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
七二	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
七三	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
七四	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
七五	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
七六	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
七七	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
七八	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
七九	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
八〇	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
八一	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
八二	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
八三	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
八四	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
八五	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
八六	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
八七	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
八八	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
八九	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
九〇	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
九一	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
九二	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
九三	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
九四	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
九五	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
九六	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
九七	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
九八	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
九九	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七
一〇〇	東京真田町の会の活性化に向けて	編集部	一七

## 会長就任にあたり

会長 深町共榮

(田中・旧姓山岸)



この度、金子誠会長の勇退に伴い、第36回(令和5年5月21日(日))の総会にて会長に就任致しました。

真田町30周年の記念事業の一つとして、町を挙げて昭和63(1961)年に結成された「東京真田町の会」は今年で36年となります。この間、真田町は上田市と合併したことで町の自治は消滅しましたが、新生上田市のふるさと会の一つとして、「東京真田町の会」の活動が続いております。結成当時の会員数は500名を上回っておりましたが、会員の高齢化にともない退会される方が多くなり、現在の会員数は100名を下回っています。このため、役員の手が少なくなり、私は、会長兼事務局の役を務めることになりました。これから、若手の新入会

員を増やさなければ会が維持できません。地元真田地域自治センターの協力を仰ぎながら会員増に努めて参りたいと思っております。

この度の総会にて、故郷の活性化に協力したいと言われていました坂口英一氏(真田)に理事に就任していただきました。役員が減る一方のところ、大変喜ばしいことです。

今年から新型コロナウイルスの防疫体制が第5類になりましたので、会場の雰囲気は極めて明るく、副市長様をはじめ上田市関係の皆様をお迎えし、ほぼ通常形式で頭書の日(日)にアルカディア市ヶ谷にて開催できました。

次の第37回を令和6年5月19日(日)に開催予定ですので、できるだけ多くの皆様方にご参加いただけますようご期待申し上げます。8月5日には、ふるさと真田の郷において、「真田まつり・花火大会」が開催されました。私と坂口英一理事が出席してまいりました。

できる事ならば、真田まつりの折に会員の皆様方が「ふるさと訪問」されると良いのですが?どのようになれば実現できるか、検討して参りたいと思っております。

当会の会員数が発足時の十分の一程度になった場合、会の維持は困難となります。役員一同、知恵を出し合って検討してまいります。

上田市側のふるさと会に対するご意見を伺いながら、会の在り方を検討してまいります。

これまで上田市のふるさと会は三つありましたが、40年の歴史をもつ東京丸子会が令和4年に解散しましたので、残るは当会と東京上田会の二つとなりました。上田市ふるさと会の統合に向けて、金子前会長のもとで当会は賛意を示しました。これからも会員の皆様のご意見を伺いながら、東京上田会との統合に向けて話し合いを重ねてまいります。

この5月、上田市の新庁舎において副市長小相沢様、真田地域自治センター長田中様、東京上田会会長の山寄様、同会専務理事の宮島様、そして私深町等が参加し、上田市ふるさと会について話し合いを致しました。今後もこのような会をもち、東京真田町の会の今後の発展を図りたいと思っております。

最後になりましたが、会員皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。会長就任のご挨拶とさせていただきます。

### 謝辞

会長を退任された金子誠様を顧問に推薦するのが本会の意志と愚考しますが、ご本人が健康上の理由にて退会されましたので、残念ではありますが顧問就任を見送り

とさせていただきます。金子様は、20年前に理事に就任された後、会計係と会長をそれぞれ5年間務めていただきました。当会の発展には長らくいろいろとご尽力いただきましたこと大変ありがたく、心から御礼申し上げます。どうか会を離れても東京真田町を見守って頂きたいと存じます。私事でですが、金子様は同じ田中区自治会の出身で、4年先輩であり理事会の帰りには同じ高崎線であったことから、車内でのふるさと談義が楽しみでした。お世話になりました。  
【原稿】依頼2023年10月5日、入稿同年10月28日

## 選ばれる上田市を

目指して

上田市長 土屋陽一



東京真田町の会の皆様には、御健勝で御活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、この夏の上田市の大きな話題として、上田西高等学校が第

105回全国高等学校野球選手権記念大会に、8年ぶり3回目の出場を果たしました。甲子園では、開会式直後の第1試合に登場し、激戦の末、敗れはしたものの堂々とした戦いぶり、全国の高校野球ファンに「上田西」の文字が深く記憶に刻まれたものと思います。改めて選手たちの健闘をたたえ、選手たちが甲子園から届けた勇氣や感動が上田市を更に前へ進める原動力となることを期待するものであります。

次に、災害への対応についてです。今年9月中旬に市内において局所的な大雨を観測し、土石流や河川の氾濫が発生し、住宅への土砂・浸水被害や道路の崩落など、各所で被害が発生しました。被害にあわれた皆様には心よりお見舞い申し上げます。市といたしましては、災害復旧補正予算を9月議会に上程、議決いただき、被災箇所の日も早い復旧のために全力を尽くすと共に、上田市総合防災情報システムを活用した災害情報の共有や迅速な避難情報など、防災体制の強化に取り組んでまいります。また、地域産業の下支えと物価高騰の影響を受けている観光事業者の事業継続を支援するため、昨年度に引き続き、市内観光協会が行う誘客促進事業に対する補助事業、菅平高原及び武石番所ヶ原へ

のスキー客を対象としたリフト券購入に対する助成事業を実施し、冬季の誘客を促進することで、更なる地域経済の活性化に取り組んでまいります。

このような地域の魅力を高めていくなかで、地方の人口減少を食い止める移住定住を積極的に進めるため、国・地方を挙げて東京一極集中を見直し、地方都市への移住定住を促す施策を展開するとともに、テレワークが普及するなど、新たな生活スタイルへの転換や働き方改革も進められてきております。市では、長野県との連携により、県内企業の担い手不足の解消や県内移住を促進するための支援金制度を設け、移住者確保に努めてまいります。

あわせて、人口減少による財源の確保を行う必要があり、個人での寄付制度としてすでに知られたふるさと納税制度と、企業版ふるさと納税(地方創生応援税制)についてもPRさせていただきます。企業版ふるさと納税は、国が認定した地方公共団体の地方創生事業に対して企業が寄付を行った場合、寄附に係る損金算入措置による軽減効果(約3割)と合わせ、最大で寄附額の約9割に相当する額が軽減される制度です。上田市では企業版ふるさと納税を通じて、子育て支援、公共交通キャッシュ

レス化、上田城跡整備など、上田市の魅力を一層高めていく戦略的政策を促進し、選ばれる上田市を目指してまいります。企業の皆様の温かいご支援をお願いいたします。今後も引き続き、「市民力」と「共感力」を大切に、皆様との協働により、力強く市政を推進します。東京真田町の会の皆様におかれましては、ふるさと上田市を温かく見守っていただき、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、東京真田町の会のみますの御発展と深町会長はじめ、会員の皆様の御多幸を心から祈念し、会報「日本ダボス」に寄せるあいさつと致します。

【原稿】依頼 2023年10月5日、入稿同年11月20日

### 新たな

### 故郷を目指して

上田市議会議員 佐藤論征



東京真田町の会の皆様におかれましては、益々ご健勝、ご活躍のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より故郷にお寄せいただいておりますご支援とご協力を心より感謝申し上げますとともに、5月の総会・懇親会にお招きをいただき、大変お世話になりました。御礼申し上げます。

さて、真田地域では本年、真田地域の皆さんの身近な情報伝達ツールとして昭和37年から60年余の長きにわたり利用されてまいりました真田有線放送電話が、機器の老朽化、著しい加入者減少により採算が取れなくなったことなどにより3月31日をもって閉局いたしました。これまで真田有線放送電話は、日常の地域の皆さんの連絡手段、地域の情報発信手段としてはもとより、災害時の緊急伝達手段として大きな役割を果たしてまいりました。最近では、令和元年の東日本台風でも緊急放送が大きく役割を果たしたところであり、しかしながら、携帯電話・スマートフォン の普及などによる情報伝達手段が多様化する中において社会ニーズに順応した選択をするなか、残念ながら閉局せざるを得ない状況でございました。9月16日には、真田地域において1時間に88ミリという猛烈な雨量を記録し、集中豪雨により大きな被害が発生した

しました。各自治会において真田有線放送電話閉局により、連絡網やLINEの利用により新たな伝達手段の構築をしていたところではありましたが、伝達方法や伝達スピードなど課題が残ったところでありました。今後は真田地域内の新たな伝達手段の構築が真田地域全体が必要であり、市議会といたしまして今後の真田地域の新たな情報伝達手段の構築について注視してまいる所存であります。

一方、明るい話題といたしましては、新型コロナウイルス感染症の影響により皆様にも大変ご心配をいただいておりますが、菅平高原の状況でございますが、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の分類が五類へと移行したこともあり、今年の夏季シーズンはラグビーなど例年開催されていた主要な大会も開催され、多くの学生・社会人チームが合宿に菅平高原を訪れていただきました。これからの冬季シーズンにつきましても、更にも多くのお客様が菅平高原を訪れていただけることを期待しているところでございます。

東京真田町の会の皆様方におかれましても、元氣を取り戻しつつある故郷へこれまで以上に「帰郷いただき、故郷の姿をご覧いただければ幸いに存じます。」  
結びに、東京真田町の会の益々

のご発展と会員の皆様の益々の健康をお祈り申し上げ、第36号「日本ダボス」発行にあたりご挨拶とさせていただきます。  
〔原稿〕依頼<sup>2023</sup>年10月4日、入稿同年10月31日

### 地域の絆を未来の世代へ

真田地域自治センター長

田中昌彦



東京真田町の会の皆様には、お健やかに過ごさしめたいとお喜び申し上げます。

また、三十年以上の長きにわたり、会の運営、発展のため御尽力賜りました役員の皆様並びに会員の皆様には、改めて敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。次第でございます。

はじめに、今年9月16日(土)夕方から、真田地域において1時間に88mmという、叩きつけるような猛烈な大雨を観測しました。特に被害が大きかったのが角間自治会、真田自治会、赤井自治会でしたが、溢れた堰の水の影響などで、本原

地区の広範囲にも被害が発生しました。特に長小学校の上を流れる小別当川ではこの僅か2時間に満たない猛烈な雨の影響で土石流が発生し、近隣住宅への土砂流入や浸水被害が発生しました。真田地域自治センターとしても、避難所の開設や翌日すぐに被害状況の把握と応急措置、またその翌日にはセンター職員ボランティアによる土砂流入被害家屋の泥上げを、地域の皆様と協力しながら行いました。

この災害で強く感じたことは、地域の絆の重要性です。誰かに助けを求めなければいけない場面に、そのSOSをいかに早くキャッチできる地域であるか、行政と市民の橋渡しをしてきている自治会の重要性を改めて身をもって体験しました。コロナ禍を経て人の繋がりが薄れていく話も耳にします。人口減少が続く社会において人の繋がりはますます重要になってくるものと考えます。

近年、SDGsで示される持続可能な社会に必要な要素に、「ウェル・ビーイング」という言葉があります。これは肉体的、精神的、そして社会的に、完全に満たされた状態にあることを指しています。地域の皆さんが幸せを感じるためには何が必要だろうと考えるに、それは価値観の多様性が成熟した社

会において「自分の住む地域を誇りに思えること」によって、共通した幸福感を得られるのではないかと思います。地域アイデンティティともいべき地元を誇りに思う気持ちを形成してきたのは、地域の一周駅伝大会や真田まつり、野球大会など、先人の方々の努力により引き継がれてきた人の繋がりを維持していく事であると感じています。引き続きこの真田地域に明るく、夢のある地域の魅力を子どもたちにつないでいくために、職員一同、地域の皆様と手を携えて地域づくりを進めていきたいと考えています。

会員の皆様には現況を御理解いただき、引き続きふるさとのまちづくりにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、東京真田町の会並びに会員の皆様の益々の御発展と御健勝を御祈念申し上げます、御挨拶とさせていただきます。

〔原稿〕依頼<sup>2023</sup>年10月5日、入稿同年11月20日

### 九月に長・本原地域で

#### 豪雨災害発生

上田市議員 古市 順子

5月21日に行われた東京真田町の会総会・懇親会の折は、大変



お世話になり、楽しい時間を過ごさせていただきました。

また、真田まつりにもお出かけいただき、ありがとうございました。

今年の夏は大変な猛暑でしたが、お元気で過ごしてましたか。上田市でも全国で一番気温が高い日もあり、9月半ばまで「暑い、暑い」と言っていて過ごしました。お彼岸過ぎから涼しくなりましたが、それからは急に朝晩は冷え込むようになり、暖房も必要となりました。10月下旬には真つ白に霜が降りる日があり「10月にも霜とは・・・」と驚きました。急激な気候の変化に戸惑いながら、冬の準備をする頃となりました。紅葉前線も下りてきました。

### 九月には豪雨による災害が

台風19号の災害発生から丸4年が経ちます。真田地域の復旧はほぼ済んだようですが、今年9月16日に、長・本原地域に局地的な豪雨災害がありました。長小学校で1時間に88ミリの雨量を観

測したというゲリラ豪雨でした。全国平均の年間降水量は1700ミリ、上田地域は900ミリです。短時間に多量の雨が降り、長では旧菅平有料道路から上の小さな二つの河川が氾濫し、土砂災害が発生しました。本原では大沢川等があちこちで溢れました。

真田地域自治センターでは、自治会長さんからの被害状況の報告に基づき、調査結果をまとめました。10月30日現在、床上浸水5件、床下浸水13件、敷地内への浸水・土砂流入20件、他にもまだ調査中の案件もあるそうです。また、道路、河川だけでなく、農地、農業用施設にも大きな被害がありました。本原の赤井地区では、リンゴ畑が何カ所も崩れました。

9月16日は9月定例市議会の開会中でしたが、閉会日の10月3日には災害復旧の7億8千万円の補正予算案が提出されました。真田地域の道路・河川は32カ所。農地・農業用施設は18カ所。林道は3カ所。お屋敷公園の橋1カ所です。真田地域自治センターでは本庁職員の応援も受けながら、短期間に現地調査、補正予算案の策定に努力されました。

2006年の合併時には、住民運動もあり自治センターの機能を7割残すこととなり、農地の土地改良も含めた建設課があります。地域住



豪雨により赤井地区のリンゴ畑に崩壊発生

民の身近な相談窓口であり、災害時にも素早い対応ができます。思いがけない災害発生でしたが、来年の耕作に影響が出ないように国の補助事業の査定準備も進められています。

会員の皆様には、向寒の折ご自愛くださいますように・・・

またお会いできる日を楽しみにしております。(10月30日)

【原稿】依頼 2023年10月4日、入稿同年10月31日

### 空き家が生まれ変わる

—地域初シェアキッチンで

賑わいの創出—

上田市議会議員 齊藤加代美

(旧姓 倉島・本原出身)



この度の「東京真田町の会」では、皆さまのお元気なお姿、楽しい対話ができ、嬉しさいっぱいの会にお招きいただき感謝いたします。今回は会に参加したことがきっかけで、一般質問に繋がったことについて書かせていただきます。

この度の深町会長のご挨拶で「東京に住む私たちが、さらに故郷に関係性や必要性をさらに深めることはできないのか」との問いかけもありました。実は、私の地域の東京丸子会が昨年解散し、東京に住む上田のふるさと会等への呼びかけも深町会長は進めてくださっており、電話などでその問いの課題も伺っていました。東京真田町の会の皆様が、いつも郷土を想い、貢献をしてくださっている事を心から感謝しながら、さてその手法はなんだろうか、策を考え

ていたところでした。

そんな時、懇親会のテーブルで同席させていただいた会員さんから「故郷にお墓があり、掃除にはいくが、空き地や家など残していて手放したいのだけれど、どうしてらいいか分からなくて」そんな相談をいただきました。中には、市の空き家バンクで、譲り先が決まったお話も聞きました。これは、深町会長が望む東京真田町の会と上田市の「Home」の関係を構築できる絶好の手法でもあるのではと、その時思ったのです。

そこで、今年の6月の議会一般質問で、職住近接が叶うまちを実現するための一要素「住むところがある」で質問をしました。その一部を紹介します。

「空き家バンクの問合せ件数、成約数、就業希望者の住居を確保するため、東京上田会や東京真田町の会の会員の方に協力を得る考えはありますか」の問いに、都市建設部長が答弁で、「令和4年度の問合せは空き家提供161件、利用希望445件で、過去5年間で最多です。物件登録件数は52件、成約件数は売買25件、賃貸4件。成約数累計は174件。今後、登録物件の掘り起こしが重要であり、東京上田会、東京真田町の会等の協力を得ながら進めていきたい」との答弁をいただきました。

実は県内でも上田市の空き家バンクは、成約率も高く評価されておりますので、会の皆様、お困りのふるさとの物件等がありましたら、安心して上田市へお気軽にご相談ください。真田町は、市街地へも近く、移住者の皆様にとっても人気の土地であるのですよ。

次に、真田にお住まいの上田市地域交流アドバイザーの「間藤まりのさん」をご紹介します。間藤さんは、空き家の活用を行う「まにまに」や真田地域にある拠点「さんかくのいえ」を整備しながら、地域内外の交流を生み出す場づくりで、若い人達が真田を盛り上げようと楽しみ、がんばってくれています。空き家解消など地域課題の解決につながるために地域初のシェアキッチンをDIYするためにクラウドファンディングして、113万円を達成し、今春オープンしました。若者のセンスで、真田地域はよみがえっていますよ。

そして今年も、山家神社でお田植の早乙女を長女と参加しました。今度は、2月の節分の豆まきでピンク鬼を希望しています。今から楽しみです。私も大好きな故郷、真田で楽しませていただいています。

最後に皆様の益々のご活躍を故郷からお祈りしています。

【原稿】依頼 2023年10月5日、入稿

一次同年11月13日、二次11月29日

真田まつりの姿に感じる

地域の未来

真田地域自治センター地域振興課

望月 領都



東京真田町の会の皆様には、日ごろから上田市そして真田地域にお心を寄せていただき、厚く御礼申し上げます。今回、真田まつりの現在と発展に向けてメッセージを寄せてほしいと頂戴いたしましたので、誠に僣越ながら寄稿させていただきます。

私は出身が山梨県ですが、学生時代に上田市に住んでいたことから、一旦地元で就職後も、上田市で生活したい気持ちが強くなり、前職を辞め、上田市に移住してきました。ここ真田地域自治センターでは自治会などに関する仕事で6年間お世話になっていきます。

隣県から移住してきた私に、長野県の、そして上田市のどこが面白いの？と何度も聞かれることがあ

(有) 上原重機

クレーン作業は懇切丁寧で定評のある上原重機

へご相談下さい

Rough terrain crane / TADANO

25t / 10t / 7t / 5t

吊上げ：鉄骨・鉄筋・住宅・

庭園(庭石・植木)・その他一般

〒389-0505 東御市和 1086-1

TEL 0268-36-2369, FAX 0268-35-0502

上原重二・恵子(大日向出身) 姓一之瀬



東京真田町の会

理事 坂口 英一

(真田出身)

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-6-1

全国家電会館 2F

有限会社 エーストレーディング

☎ 03-5812-4712

りますが、それはこの日本が培ってきた地域の人の繋がりを、令和の現在でも大切にしているところかと思えます。そして、この真田地域では特に色濃くそれらが残っているように感じます。

中でも、真田まつりの雰囲気はとても心が温まります。ここ数年、コロナ禍ということもあり、思うように開催出来ない時期が続きましたが、昨年、今年と大変な賑わいを感じました。

それは、大きなイベントを催すということではなく、地域の様々な方々が、誰かのためにこの真田まつりを盛り上げたいという気持ちが伝わってくることから来ていると感じています。

人が人を思い、力を寄せ合って作り上げる真田まつりがこの先将来に渡り、地域の子どもたちに真田地域の夏の風物詩として、そして地域の誇りとして受け継がれていく為にも大切な時間だと感じています。ぜひ東京真田町の会の皆様にも、ふるさと真田まつり夏の陣にお出かけいただき、地域の皆様との交流を楽しんでいただけたら幸いです。

結びに、東京真田町の会並びに会員の皆様の益々の御発展と御健勝を御祈念申し上げます、日本ダボスへの寄稿とさせていただきます。

【原稿】依頼 2023年10月5日、入稿

同年 11月20日

### 親しまれるJA

信州うへだ農業協同組合

代表理事組合長 眞島 実



東京真田町の会の皆様におかれましては、益々清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃は、信州うへだ農業協同組合の事業運営・地域貢献活動にご理解を賜るとともに、信州うへだの農産物を愛顧いただき心より御礼申し上げます。

さて、管内の農産物の状況につきましては、春先には一部地域において凍霜害が発生し、7・8月には降雹・強風により農産物に被害が発生しました。農家の皆様の並々ならぬ努力により、安全・安心・新鮮な農産物をお届けできるよう農作業が進められております。当JAも首都圏の各市場へ行政とトップセールスへ赴き、菅平高原産レタスをはじめ管内産農産物のPRに努めました。また、卸売市場との懇談会を開催し高品質な菅平産レタスに対し高い

評価を頂くと共に、再生産可能な価格での販売を要望しました。地元真田町の生産者が丹精込めて生産した農産物の魅力を首都圏へ発信し消費拡大に努める事で、農家所得の増大と地域の活性化につながる取り組みを行っています。

また、現在の農業を取り巻く環境は、少子高齢化の進展から農業の担い手や後継者不足などによる農業生産基盤の減退に歯止めがかからず、コロナ禍の長期化による需要の減退、価格の低迷に加え、田安や諸外国からの輸出規制などによる飼料・肥料価格をはじめとした生産資材価格高騰が、農業、農家経営に大きな影響を与えている状況にあります。この様な状況に対しましては、本年は食料・農業・農村基本法の見直しの年でありますので、JAグループとともに食料の安全保障の確立、農家経営の維持・継続に向け、再生産可能な農産物価格の確立など、農政活動に取り組みしております。消費者の皆さんに対しては、農業の持つ多面的機能の重要性なども発信し、農業への理解を深める運動も行っておりますので、東京真田町の会の皆様にも農政運動にご理解とご協力を賜りますよう、お願い致します。

さてJAフェスティバルは第二十九回を迎え、全七地区で開催致しました。真田地区は十月二十一日に農産物直売所「新鮮市真田」一帯を会場として地元産リンゴの直売をはじめ、菅平高原産の白菜、ほうろなど新鮮な旬の野菜を販売し大勢の皆様にご来場いただきました。

《広告欄》

 <p><b>Avancé Techne Accent Corp.</b></p> <p>(株)エーティーエーは、航空宇宙業界をはじめ医療機器などのあらゆる産業界発展に貢献しております。</p> <p>事業内容 自動(組立・検査)機器、電子機器、計測器、ソフトウェアの開発及び受託生産</p> <p>代表取締役社長 山岸 栄 (傍陽出身)</p> <p>〒350-1203 埼玉県日高市大字旭ヶ丘字竹の台630-2 電話 042-984-3666 FAX042-984-3655 <a href="https://www.at-accent.co.jp">https://www.at-accent.co.jp</a></p>	<p><b>東京真田町の会</b></p> <p><b>会長 深町 共榮</b></p> <p>(田中出身)</p> <p>〒366-0052 埼玉県深谷市上柴町西 5-7-82 〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽 825-7 ☎ 090-7225-6491</p>
--	---

今後も地域に根ざし、組合員をはじめ地域の皆様が安心して暮らせる豊かな地域社会を築き、皆様に親しまれるよう役職員一丸となって事業に取り組みで参ります。

今後ともご支援ご協力を賜れば幸いです。

結びに貴会の更なるご発展と会員各位のご健康、ご多幸を、祈念申し上げ、本会誌「日本ダボス」に寄せるご挨拶とさせていただきます。

【原稿】依頼 2023年10月4日、入稿10月31日

ふるさとの景色に

癒されて

JA信州うえだ真田地区

理事 宮崎 早苗



5月に開催された東京真田町の会では、大変お世話になりました。農協の理事の立場として初めて参加させていただきました。

美しきかな我が里は、空紺碧に雲光り、四阿烏帽子の峰高く、洗馬神川の水清し♪

真田中学校校歌にうたわれるこの景色に魅せられてはや30余年、役場の新庁舎が完成した頃に真田町の住人となりました。子供の頃に親しんだ浅間山・八ヶ岳の眺めから、真田氏の歴史を刻む山懐に抱かれた農村の景色が、私のふるさとへと変わりつつあります。

真田の風景といえば四季折々に変わる山々の彩りと、代々受け継がれてきた水田や畑の景観も見逃すことはできません。

春から在宅の身になったので、50坪の畑を朝夕の時間をさいて管理しようと決めました。早朝農具を乗せた軽トラックで畑に乗り出し、6時のサイレンを聞いたなら草刈り機で土手草の管理。今年の夏の暑さに耐え、収穫期を迎えた野菜の害虫の被害などかわいいもので、まもなく食べごろと待ちに待った私の夏の主食トウモロコシは、鳥や獣にとっさりとお裾分け。作物を収穫すれば、その保管先に頭を悩ませ、取れ過ぎたナスはどいうやたら食べつくせるのか、これもまた思案。農村で自給自足をしたいという、都会から移住を希望する若者たちを前に、いやいやそんな甘いものではないですよ、とついつい苦言を呈する自分に苦

笑いしながら、鍬と鎌だけでは今どき家庭菜園もできない現実を伝えてきました。

さて今年の農作業も終盤を迎え、田畑にわらを切り込み、息子にトラクター作業を頼む時期になりました。秋の深まりとともに活気を失った畑の草たちに、一年の終わりを感じています。

さて私の来年の計画をお話ししましょう。周囲を道路に囲まれ、特に農道側は散歩にはもってこいで人通りも多く、ただ野菜を育てているだけではもったいない。

そこで、真田の少し遅い雪解けの中で咲くクリスマスローズ、スイセン、100本の色とりどりのチューリップ、土手には芝桜と青色のムスカリ、そしてポタン、シヤクヤク、アヤメ、バラといつも花々がみられる、そんな畑を目指して、フラワーガーデン構想を進めています。畑の片隅の花壇が、いずれは花畑の一角の野菜畑へと変身する日を楽しみに描きながら。

農作業中に声をかけてくださる皆さんと、季節の花の話題で会話が弾むようになれば、地域の方々と新たなネットワークが広がるかもしれません。お休みどころの木製のベンチも置きますよ。花々の配置を考えて今年の秋ももうひと踏ん張り、球根の定植に精を出すこの頃です。

 <p>土木工事 解体工事 測量 造園 除雪</p> <p><b>株式会社山崎商會</b></p> <p>代表取締役社長 山崎 勇治</p> <p>〒386-0002 長野県上田市住吉 1039-2</p> <p>TEL 0268-24-6221 FAX 0268-27-7558</p> <p>e-mail:yamazaki_shyoukai@yahoo.co.jp</p>	 <p>山崎公認会計士事務所</p> <p>Yamazaki CPA Office</p> <p>公認会計士/税理士 山崎 友揮</p> <p>(長野県上田市住吉長島 出身)</p> <p>〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-12-7 MSビル6F</p> <p>tel. 03-6272-6539 fax 03-6272-6765</p> <p>e-mail.yamazaki@yy-cpa.com</p>
---	---

結びに会員の皆様の、益々の健康をお祈りいたします。  
【原稿】依頼 2023年10月4日、入稿10月31日

ふるさとの

### 明日を築く商工会

真田町商工会 会長 木島 德行



このたびは日本ダボス第36号発行に寄稿させていただきました誠にありがとうございます。

真田町商工会は「商工会の組織等に関する法律」の施行により昭和35年9月に設立発足いたしました。以来63年間、今日まで組織と事業の拡充強化に努め現在会員250名余りを有しております。このことは行政をはじめ関係各位の深いご理解とご支援によるものであり、東京真田町の会の皆様にも感謝の意を表する次第です。

商工会は地域の小規模事業者を中心に組織されており、主に「事業者の経営改善普及事業」や「地域の

振興事業」を行っている経済団体であります。アフターコロナになつたとはいえウクライナ情勢、物価高騰等により、依然厳しい状況が続く、又、後継者不足も重なり会員数は減少傾向にあります。そんな中で、本年、基幹産業である観光業の菅平高原はコロナ前の賑わいを取り戻しつつあり明るい兆しも見えてきております。

又、各種イベントも元にもどつつあり、5月の「御屋敷つつじ祭り」、8月の「真田まつり」は感染症に配慮しながらも通常開催することができ、地域経済の回復にも寄与しているところであります。

一方で消費税インボイス制度、物価高騰、為替相場等中小企業にとつては懸念される課題が多々あります。この状況を商工会の必要性を感じてもらえる契機ととらえ、国市の行政機関や関係機関と連携し、存在意義を再認識していただき、取り巻く課題解決を第一に支援体制を強化しているところであります。

東京真田町の会の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を頂きながら本会の事業推進にご理解ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

おわりになります。貴会の益々の御発展と会員の皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げ、ごあい

さつとさせていただきます。  
【原稿】依頼 2023年10月4日、入稿10月11日

### 東京真田町の会

第三十六回総会・懇親会が、

和やかに開催！

東京上田会会長 山崎齋明



本年、二〇二三年度総会・懇親会が五月二十一日(日)アルカディア市ヶ谷私学会館にて開催されました。東京上田会宛にご案内をいただきましたので、私が、昨年度に続いて出席いたしました。コロナ禍の少し収まりつつある中、マスク着用は個人判断とのことでした。少人数の参加者でしたが、とても、会場の雰囲気は良く和やかでした。総会では、会長の金子誠様から新会長に深町共榮様に代わられたことのお知らせがありました。尚、深町様から「ふるさと会」の統合に向けて「」の報告もされました。

かんせいえん

# 菅清園

菅平まんじゅう 製造、販売

地酒・地ワイン・地ビールも揃えております

菅平高原 菅清園 Tel : 0268-74-2525 Fax : 0268-74-2655

私も、東京上田会として、真剣に前向きに捉えて、検討してまいります。

東京真田町の会発足は一九八八(昭和六十三)年で、真田町の誕生三十周年を祝して真田町の発展を図るために真田町出身の関東の在住有志に呼びかけられました。

当初は会員五〇〇名を上回っておりましたが、現在では約一〇〇名です。会員の高齢化と新加入者の少ないことが原因のようです。当面の間は、新会長深町共榮様をはじめ、新体制で運営されますことと良かったです。

東京上田会の発足は一九九六(平成八)年の二月です。当時の上田市の活性化を望む関東圏に在住する高校の同窓会の有志の呼びかけで、会員約五〇〇名での設立となりました。本会は「アイ・ラブ・ウエダ」を合言葉に上田を愛する方なら誰でも会員仲間になれる会です。直後から、正会員八〇〇名に、準会員約一〇〇〇名となりました。東京上田会でも、会員の高齢化で退会者がいて、新会員の加入者が少ない現状です。

二〇二三年の十月六日(金)、当会のイベントとして「信州上田東京の集い」を浅草ビューホテルにて開催しました。上田市から来賓二十三名をお迎えし、総勢参加者百二十五名で、賑やかで親睦交

流を深めた集いができました。二箇月ほど遡った猛暑のなか八月五日のこと、当会恒例の体験ツアーとして今回、菅平の農園でブルーベリー摘みを実施しました。上田市議会の議長佐藤論征さん、真田自治センター長田中昌彦さんのお世話で、「稲倉の棚田」や真田温泉をご案内頂き、楽しい一日になりました。

結びに、東京真田町の会のご発展を心より願っています。会員皆様のご健康とご多幸をお祈り致します。

【原稿】依頼 2023年10月5日、入稿同年10月31日

### 地域活性化

—ふるさと快活

&できる状況づくり—

一般社団法人洗楓座 代表理事  
元千葉大学大学院准教授

工学博士 佐藤健吉



わたくしは千葉大学で航空機や鉄道ほか、多くの機械が稼働中に起こる金属疲労の中でも、厄介な疲労破壊である「フレッティング疲労」について研究し、工学博士の学位を取得しました。

地域活性化との関わりは、風車の疲労に目を向けたこと。風力発電を研究テーマにもしたが、地域分散型エネルギーである風力発電が日本では進まない。そこで自然エネルギー推進のために、「洗楓座」という学外組織を立ち上げた。その名の「洗」のサンズイは水力を、光は太陽光を、「楓」のキヘンはバイオマス、風は風力を、「座」の土は地熱を、人&人は自然エネルギーを推進する人々を象徴するとして命名した。

地方の疲弊は金属の疲労と同じで複雑で厄介であるが、大きな原因は東京一極集中、そして少子高齢化&人口減少。その結果、地方鉄道(ローカル鉄道)が経営困難になっている。

国交省の受託事業として、千葉県のみすみ鉄道への応援を実施。2009年12月に、第1号となるのみすみ鉄道応援酒「鐵の道」を沿線の酒造と協力しリリースした。第2号は大阪の水間鉄道。第3号は3.11で罹災した三陸鉄道を応援酒する「鐵の道」を2012年に復興祈念としてリリースした。第4&5号は秩父鉄道

応援酒「鐵の道」。長野県では、しなの鉄道応援酒「鐵の道」を2013年



西上田の沓掛酒造から発売のしなの鉄道応援酒「鐵の道」(2013年3月)

3月に第6号として発売した。酒造りは西上田の沓掛酒造、「鐵の道」の題字は上田西高校書道部の生徒が揮毫した(写真)。現在までに、9路線で10の「鐵の道」がリリースされている。「鐵の道」の姉妹としておつまみの非アルコール「鐵の娘道」もある。

地域活性化は言い慣わされて古い。そこで、新しく「地域快活」と、さらに愛着を強めて「ふるさと快活」と呼ぶことを提案している。その推進力として工学者ならでの切り口として、「工」という字を用いて理解を進めている。「工」の上の「一」を天や理想(夢)とみなし、下の「一」を地や現実とみなす。天と地を縦棒「|」でつないだものが「工」。すなわち天と地を(理想と現実を) つないで夢を実現するこ

とが「工」という意味。これは、欲しいものをモノづくりすることでもあり、課題や問題を解決することでもある。地方や地域の疲弊を、こうして解決して元気なふるさとにしたいものである。

その活動には、いわゆる「環境づくり」では不十分で、ふるさと関係者である主体者が意志をもって行動する「できる状況づくり」が要であると述べた。僭越ながら、「東京真田町の会」こそが、上田と東京をつなぐ触媒としての役割で、「ふるさと快活」の要であると述べた。当日の懇親会では、杏掛酒造の「鐵の道」を味わった。

おわりに「東京真田町の会」で講演の機会を頂いたことに感謝いたします。

【原稿】依頼 2023年10月5日、入稿同年11月3日

【御礼】本稿は第36回総会・懇親会での講演を氏に纏めていただいたものです。厚く御礼を申し上げます。

傍陽讃歌

—開校一五〇周年事業—

上田市立傍陽小学校長

橋詰 文彦

学制発布の翌明治六(一八七三)年一二月一日、傍陽小学校の前身

である金縄学校が、古利金縄山実相院に開校しました。以来星霜を重ね、令和五年、開校一五〇年を迎えました。この周年にあたり、昨年度から記念事業実行委員会を立ち上げ、委員長の中澤祐太様を始め、皆様のお力添えをいただきながら事業を進めてきました。

主な事業は、以下の通りです。

- ①春の記念運動会に合わせた風船飛ばし、②九月の参観日に合わせたドローンを使用した集合写真、③一〇月の記念音楽会に合わせたタイムカプセル(投缶・封印セレモニー)、④開校一五〇周年記念式典(十一月二三日、サントミューゼ)、⑤『開校一五〇周年記念誌』の刊行、⑥ご寄付の依頼、⑦広報紙『傍陽讃歌』の発行等

風船飛ばしは、去る五月二七日に実施しました。一人ひとりの願いを記したカード付き風船を、天候に恵まれた中で一斉に飛ばしました。天空高く上がる色とりどりの風船を、参加者全員で見送る時間は、とても感動的でした。さらに飛ばした風船メッセージへの返信が翌日から次々と学校に入りました。最初は東京都大田区の方、続けて埼玉県、群馬県在住の方々から電話・メール・お葉書をいただき、一同、感激を新たにしました。

タイムカプセルは、一〇月二〇日の記念音楽会にあわせて、全校・



保護者とで、手紙等の品々の封入セレモニーを実施しました。子ども達の手形を押したカプセルを一〇年後に送ります。

児童の活動としては、職員の作詞・作曲によるオリジナルソング(「山の大きな木―一本松」)写真にならぬ富士山)を、昨年度から高学年・音楽クラブを中心に練習し、音楽会をはじめ折々に披露してきました。一本松は弾正塚の一本松、富士山は本校から遠望す

る富士山に心を寄せた合唱曲です。十一月二三日の記念式典でも、参加される傍陽ゆかりの方々に、ぜひお聴きいただきたいと思います。また、ご寄付も地域・団体・個人からお寄せいただいています。ありがとうございます。

皆様のお力添えをいただきながら、様々な事業・活動を通して「傍陽讃歌」を高らかに謳い上げ、未来に向けて夢を描く一年にしたいと願っています。

【原稿】依頼 2023年10月30日、入稿同年11月10日

ご寄付のお願いに関する「趣意書」を2ページに掲載していますので、ごらん下さい。

百五十年周年の節目

上田市立長小学校

校長 西澤 直記

明治六年の学制制定より開校した長小学校は今年で百五十年を迎え、幾多の変遷を経ながら、長小学校の教育理念は脈々と受け継がれ、数多くの人材を育て、今なお各界で活躍中の方を輩出していることは、長地域に根付く風土・文化・教育の賜物であり歴史と伝統とその重みを感じます。校長室や昇降口の百周年記念碑には「原泉混混」(古代中国孟子の言葉より)という

大きな文字が記されており、これは、源泉は混混として流れてやむことがないという意であり、日本百名山の一つでもある四阿山を源流とする神川の清流が遠い昔から今へ、そして未来へ流れ続けるごとく、長小学校の子どもたちがますます充実し成長することを願った切なる思いが込められております。この伝統ある教育理念と地域の皆様の思いを百五十周年の節目に改めて受け継ぎ、長地域・保護者・学校が連携して子どもたちを真ん中に据えた教育の営みを継続してまいります。

令和五年度全校児童百十九名の長つ子たちは、そんな学び舎で「かしくく きよく たくましく」を学校目標に据え、自分の将来の夢の実現に向けて先輩方の生き方から学び、一歩一歩歩んでおります。記念式典の日には、地域の皆様方のご協力により、福田さん(長小近くのお蕎麦屋さん)によるとっかん実演、笑劇団真田さん(真田地域の劇団)による「水戸黄門」、保科すみれさん(長小卒)によるエレクション演奏、そして子どもたちが考え実現した百五十周年記念希望献立によるお祝い記念給食、と盛りだくさんのイベントとなりました。笑いあり感動あり、そして子どもたちに夢と希望を与えた百五十周年記念事業が、百五十年の節目

としての思い出深いセレモニーとして、子どもたちの記憶に残っていくことを期待しております。



笑劇団真田さんと長小児童(一部)による「水戸黄門」



地域の皆様のご協力によって実現できた「子ども達が考えた百五十周年記念給食」

これらの歩みを支えていただいている地域の皆様方、そして百五十周年記念に関わり多くのご寄付をいただきました皆様方に、感謝

申し上げるとともに、百五十周年記念事業にご理解とご協力をいただき、お力添えをいただいたすべての皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。  
 「原稿」依頼 2023年11月30日、入稿 同年12月8日

### 故塩沢和政元会長との 思い出

顧問 中島正江(戸沢・関谷)

元会長との思い出を語る前に、故人のご冥福をお祈り申し上げます。

本会の会合あるたび、話しかけて下さったこと、今想えば嬉しかったです。会長をいつも、「お兄さん」と呼んでいました。

今でもお会いすれば「元気でしたか」の呼びかけに、私も「とっても元気になっていますわよ」って応えそうな今日このごろです。

私が塩沢和政さんと懇意になれたのも、私の兄関谷末郎が同級生であったうえ、よい知り合いだっただことによるようです。おどろきました。

そんなことで、総会あるごと、帰途などではよく語りあったものです。話しは楽しくこやかに、お酒を愛し、いつも明るい姿であったことを思い出します。

個人的に私の仕事の仲間の人達と菅平へのゴルフへお招きしたときは、OBなど気にせず飛ばして楽しい時を過ごしました。今では、もうゴルフをする機会もありませんが、とても楽しいひと時でしたね。その帰り友達らと軽井沢に寄り、現地を案内して下さったこともありました。そんな時「また行きましょうね」と友達らと交わしたのですが、それがなかなか日どりが合わず、そのままでした。とても残念でたまりません。できていたらとつてもよい思い出になっていたのに。まあ、またいつかあるよ、と思っていたのに、月日が経って今日になっていきます。あの優しい姿、いつもこんな私達にまで気を使ってくれたやさしい方でした。その塩沢さんがいないなんて信じられません。「今度は中軽でゴルフをしようよ」と云って下さり楽しみにしておりましたのに、とっても残念でした。

でも、いつもこにこ話をし、お酒を楽しまれ、誰かれと話しをされ、とてもこやかに話したね。今でも忘れませんし、亡くなられたなんて今も思っています。

塩沢さんは「またゴルフにでも行こうよ」などと真田町会の人たちと話しをしていましたが、コロナさわぎで行かれずに終わりました。いつも紳士でスマートです

ばらしい人でした。元気でおいで  
だったなら、総会のあとは銀座で  
市ヶ谷で、四谷で新宿で、真田町会  
のみなさんと・。あまり上手くは  
ないかなア？歌を愛し、総会の後、  
歌を唄うのも好きで、左手はズボ  
ンポケットに入れ、スターように  
立ち、チョット恥ずかしいような  
仕草、歌い出したら 大きな声で  
楽しんでる姿忘れないよね。

亡くなられたこと聞いて、一瞬、  
信じられませんでした。あんなに  
元気であった方が、塩沢の御兄さ  
んがと、とても淋しく、悲しく、な  
んともいえない、でも私より年上  
だものね。私 84歳の兄上ですもの  
ね。

塩沢さん達がつないできたこの  
会も、これからもつないでいかな  
くてはね。元会長の山口さん、元理  
事だった鈴木さん、前会長の金子  
さん、会長深町さん、副会長の柴田  
さん、理事の荻原さん、一之瀬さん、  
坂口典和さん、坂口英一さんが頑  
張ってくれていますのでご安心く  
ださい。

さてと、私達もいずれそちらの  
世界に行きますがどうぞ手を添え  
導いてくださいね。

何の歌をうたってお別れしまし  
よか。そうだ、銀座の恋の物語でど  
うかしらね・。

♪  
心の底まで しびれるような

吐息が切ない ささやきだから  
涙が思わず わいてきて

泣きたくなるのさ この俺も  
東京で一つ 銀座で一つ

若い二人が 初めて逢った  
真実(ほんとの)恋の 物語

東京真田町の会を元気で続けて  
行きますよ。安心してお休みくだ  
さい。

さようなら。

【原稿】依頼 2023年10月5日、入稿  
同年11月06日

### 追悼 故 塩沢 和政様

副会長 柴田小夜子

「東京真田町の会」が大好きだ  
った。

三代目塩沢和政さん、長い間本  
会のために働いて下さいました。

ありがとうございます。

ふるさと訪問、さなだまつり、ゴ  
ルフ大会、マレットゴルフ、理事会、  
理事旅行など、本当に行事も多く  
当時は会員も多かったのといろい  
ろ準備も大変だったと思います。

旅先では、お酒も大好き、カラオ  
ケ大会も盛り上がり、お開き前には  
「気がつく」とお休みでした。

体調をくずされて療養生活にな  
られたころ、奥さまから「年末に届

くダボスをととても楽しみにしてい  
ました」と聞きました。元気で皆様  
と過ごした頃を思い出していらっ  
しゃったのでしょうか



《広告欄》

## 山口法律事務所

弁護士 山口 元彦

〒184-0012 東京都小金井市中町 2-19-6

TEL 042-407-2551 FAX 042-407-2551

誠実に、確実に、そして親切に

#### 取扱い事件

不動産に関する問題 相続問題

金銭問題 交通事故

刑事事件・少年事件 その他

ふる里の仲間との交流は何よりも楽しい時だったのでしょう。

皆様、若くして上京され、大変な努力をされて成功され、ふる里の友人、知人皆さんとの語らいは負いなく、心から楽しめ、安らいだのだと思います。

たくさんの楽しい思い出を胸に・・・。

御冥福をお祈り致します。

【原稿】依頼 2023年10月4日、入稿10月19日】

## 理事就任にあたり

坂口英一 (真田)



私は、人様に自慢できるような信念、生活習慣や趣味もなく会社人間として生きてまいりました。

信州の真田町で生を受けた後、その真田町で育った山猿ですが、昭和36年秋に大手金融機関2社の入社試験を受けましたが見事に不合格となり、たまたま学校に資本金が大きい会社で目に留まったの

が「東洋製罐(株)」でありその会社内容を全く分からないまま入社試験を受け、幸いにも合格となり、翌年4月、東洋製罐(株)に入社した、不心得者でした。入社後、2か月の試用期間を経て即、当時の東京工場営業課に配属となり、東洋製罐(株)時代も営業、東洋運送(株)でも営業部門しか経験がなく、全くの営業馬鹿でした。入社時はビール、コップ一杯しか飲めなかったのが、営業経験が長くなるにつれて毎日アルコール分を摂取する生活に変わってしまいました。又、30代の後半から始めたゴルフもお客とのゴルフ接待が多くなるに連れて少額の賭け事となり少額でも何とか支払いを避ける努力をした結果、そこそこのスコアでプレーが出来る状態となりました。

私のお客様からの受注第一号は、次の様な事でした。

### 「初の受注につながったドブ掃除」

入社2年目にある営業所の所長が病気で入院され、当時内勤であった事から急遽3か月間の営業所現地応援の指示を受けました。三か月間の応援終了後、その年の秋、秋刀魚・鯖シーズンで忙しくなるとの事から再び6か月間は、前回の応援経験を何とか生かそうと考え、全得意先10件、纏まった地域であった事から毎日各得意先に訪問することを決め、更に東洋製罐

(株)の販売が殆ど無い得意先には必ず訪問することを心掛けました。

但し応援時の私は、運転免許が無く全ての訪問は自転車でした。得意先訪問は、入社して初めての経験であり、特に販売が殆ど無い得意先への訪問は、苦痛の毎日でした。その販売が殆ど無い得意先一軒に対しては先ず事務所に行き「毎度有難うございます。」の挨拶の後には全く話が出来ない状態から即事務所を退散し工場事務所へ行き、製品出荷・トラックへの積み込み(手積み)の手伝いを行いその得意先にいる時間を費やしました。

更に積み込み状況により会社入口のどぶ掃除を行いました。(魚粕で川が相当汚れていました)以上のことを約1か月間続けた時点から客先の社長から必ず声を掛けて頂ける状況となりました。更に3か月位経過した時点から客先の入り口が社長の自宅となっており、社長から自宅の応接室でお茶をご馳走になり、暫く雑談が出来る様になりました。社長との雑談の中で雨が降ろうと、必ず来てくれる、又製品の積み込みを手伝い、工場内の掃除を行うセールスは初めてある等、大変褒めて戴きました。社長自身も若い時は夜行列車で干物の魚を信州に売りに行ったとの苦

労話等から「少量でも良いから坂口君の空缶の発注をしなさい」との指示が発注担当役員に出され、東洋製罐(株)として初めて大口の受注、マルハ秋刀魚味付・6号缶一万ケースを戴きました。大型トラックで約6台分の数量であり、当時としては営業マンとした鼻高々でした。

その様な経験から営業マンを続ける以上、普通の営業マンがしないような事を客先ごとに見つけ行動する事を心がけ、今日まで営業マンを続けられています。東洋運送(株)常務取締役を経て、現在、(有)エーストレーディング代表を務めています(注)。これからは今までの経験を活かし、故郷真田郷の発展に協力ををと思っておりますので、宜しくお願い致します。

(注) TEL 03-5812-4712, FAX 03-5812-4313

【原稿】依頼 2023年10月4日、入稿10月16日】

## ふるさと傍陽を離れて

上ノ山勝信 (傍陽・堀内)

昭和32年上京し現在に至って居ります。傍陽で過ごした年数よりも東京での生活はその何倍にもなりました。故郷も高齢化、過疎化、さらに少子化が進み、心が痛みます。私達の小学生の頃は、一学年に二クラス程の人数がありました。

運動会などは生徒、父兄でグラウンドが一杯になった思いがあります。いつ頃の事か分かりませんが、傍陽にも上田より電鉄バスが東は大倉、西は入軽井沢まで定期便があった事を記憶して居ます。其の後、車社会となり一家に一台車を所有し利用者減に依り運行停止になりました。私達も上田の学校に通った頃は下駄を履き、傍陽駅迄歩き、上田電鉄で上田駅迄行き、駅から歩いて学校に行っていました。今の学生達はどういう方法で学校に通っているのかな？

東京に出て会社勤めをし、經理の仕事で四十数年の間、数字との戦いでした。六十歳に停年となり、元氣だったので八年間別の会社で働く事が出来ました。仕事を辞めてからは好きなゴルフを、毎日の散歩をして過ごして居ります。また、最近では町内の老人会に入会し、月に一回の例会では、カラオケ、グラウンドゴルフ等で楽しんでおります。私の住んでいる練馬区には十九程のクラブがあつて、私のクラブには六十名程がおります。

真田町の会でのゴルフ会は何度も参加させて頂きましたが、総会への参加は今回が初めてです。懐かしい人達との交流、非常に楽しかったです。今後も体の続く限り参加したいと思っております。

また最近、池袋の大交通事故、その他高齢者に依る交通事故を多く見聞し、私も高齢となり最近運転を止めました。但し免許証は返納しません。自身の御守りにと又身分証明書として大変便利なので持っています（次回の更新まで）。交通の便の良い東京ですが、つくづく不便を感じている昨今です。会員の皆様のご自愛を。

〔原稿〕依頼 2023年10月5日、入稿同年10月23日

## 第三十六回総会および

### 懇親会の報告

信濃の国斉唱（第一、二小節）

#### 1. 総会

司会 理事 荻原啓治

##### 1.1 開会のあいさつ

副会長・事務局長 深町共榮

本日は、皆様ご多忙なところ、第36回東京真田町の会に多数ご参加いただき、誠にありがとうございます。また、上田市からは、副市長様、議長様及び議員の皆様、真田地域センターの皆様、また、JA信州うえだ農業組合長様及び理事の皆様、遠方よりのご参加、有難うございます。

残念なことに、この総会にあたり、金子誠会長によるご挨拶の予定でしたが、体調を崩され、辞任の申し出があり、不肖私のご挨拶を申し上げます。

コロナ禍であったここ三年間、わが真田町の会の活動も停滞を余儀なくされ、この間、会員の高齢化が進み、退会者が増え、現在、100名を下回りました。これから、会の活性化を図るため、若手会員を増やす必要があります。先日の5月12日には、本日、ご出席をいただいております、小相沢副市長様及び田中真田自治センター長様、東京上田会の山寄会長様宮島事務局長様、それと私にて、上田市のふるさと会の統合について話し合いを致しました。今後、市議会の皆様を含め、上田市ふるさと会活動の活性化をご検討いただきたいと思います。

当面、我が真田町会としては、真田自治センター様の協力を得て、若手会員を増やして参りたいと存じます。どうか、田中センター長様よろしくお願い申し上げます。

本日の総会において、長野県の地域おこしで活躍されております、洗楓座代表の佐藤健吉様より、お話を伺えることとなりました。佐藤様よろしく願いました。懇親会におきましては、世田谷

マジッククラブによるマジックショウ等があります。時間が許す限り、皆様方の懇親を深めていたきたいと思います。

本日の総会にあたり、JA信州うえだ様および真田自治センター様より、リンゴジュース及びお米をいただきました。また、佐藤健吉様および坂口英一様より、お酒を頂戴しております。どうもありがとうございます。

甚だ簡単ですが、歓迎のご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございます。

##### 1.2 来賓挨拶

上田市副市長 小相沢隆幸様  
今年度4月から任期4年間で務めることになりました小相沢でございます。

第36回総会おめでとうございます。会場の雰囲気からみなさまの郷里への熱き想いを感じております。今後とも、私も行政から皆様の活動を支援してまいります。

ふるさとの今を紹介しますと、上田では田植えが始まり、山麓では蕎麦や蕨など山菜の芽ぶきがにぎやかです。みなさまにはブルーベリー缶を持参しましたのでご賞味ください。

年暮れには恒例の大日向小学校跡地における「そば祭り」も人気で

す。ぜひお出かけください。  
皆様、この一年お元気で過ご  
して下さい。

JA 信州うえだ

組合長 眞島実様

盛大な第36回の開催にお祝  
を申し上げます。

ことしの地域農業では、おいし  
いお米の田植え準備が、さらにブ  
ルーベリーや三姉妹リンゴなどの  
手入が始まっています。これまで  
以上の収穫をご期待いただけるよ  
う、感謝祭にはみなさまをお待ち  
しております。

みなさまの健康増進とともに、  
ふるさと農業への力強い後押しを  
お願いしたく存じます。来年も皆  
様の笑顔と再会できますことを期  
待しております。

1.3 議事表決の報告

副会長・事務局長 深町共榮

しらかば通信30号で会員皆様  
にお願いした議案「会則、細則の改  
正について」(27頁)の書面表決結  
果の報告があった。

全返信数は71名、賛成61名、  
反対1名でした。

以上の表決結果を以って、当該  
議案が承認されました。

1.4 会計報告

副会長・事務局長 深町共榮

資料に基づき以下の四諸報告  
がなされ、異議なく承認された。

- 一 令和四年度会務報告
- 二 令和五年度事業計画
- 三 令和四年度決算報告
- 四 令和五年度予算案

1.5 新役員

副会長・事務局長 深町共榮

令和5(2023)年度の会長に深町  
共榮氏が、理事に新しく坂口英一  
氏が就きましたことを報告いたし  
ます。

2. 講演

司会 理事一之瀬和夫

演題 地域活性化

—ふるさと快活&

—できる状況づくり—

講師 工博 佐藤 健吉様

講演概要は12頁をご覧下さい。

—写真撮影—

3. 懇親会

司会 荻原啓治

3.1 歓迎の挨拶

会長 深町 共榮

私ども本会総会へふるさとから  
お越しの皆様方、誠にありがとう  
ございます。時間の許す限り会員

とご交流いただければ幸いですご  
います。本会の会員もご高齢で出  
席者少ないですがふるさと上田の  
近況を歓迎しています。地方の人  
口減とともに空き家も増えつつあ  
り、都会に住む私たちの「古家  
どうしようか・」などの悩みも  
あります。そんな話も交えて、上  
田会や丸子会の方々との交流も維  
持していけるようにお知恵をいた  
だきたくお願いします。

3.2 来賓の紹介

司会 柴田小夜子

ご来賓および出席者の紹介。

上田市行政の皆様(三名)

上田市副市長

小相沢隆幸様

(長瀬中央)

真田地域自治センター長

田中 昌彦様

(小玉上郷沢)

真田地域自治センター

地域振興課

望月領都様(上沢)

上田市市議会関係の皆様(五名)

市議会議長

佐藤論征様(真田)

市議会議員

古市順子様(竹室)

齊藤加代美様(海戸)

中村 知義様(中丸子)

《広告欄》

現代舞踊内海流  
舞踊教室



東京真田町の会顧問  
中島正江  
(内海鉄政望)

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見3-22-18-103  
☎ 03-6411-0703

株式会社 アップルサイエンス



代表取締役 川崎 豊

- プロジェクトマッピング
- ビデオ映像(会社案内など)
- ホームページ制作・メンテナンス
- CG制作

是非ご相談ください

〒381-0025 埼玉県行田市埼玉 5340-2  
TEL 048-559-5300 <http://www.applescience.com>  
Mail [kawasaki@applescience.com](mailto:kawasaki@applescience.com)

市議会事務局

竹村一寿様 (下之郷)

JA信州うえだ関係の皆様 (三名)

組合長

眞島 実様 (長和町)

眞田地区代表理事

宮崎 早苗様 (横尾)

眞田地区事業部長

中澤 元秀様 (中原)

在京の他会

東京上田会会長

山寄齋明様 (室賀)

眞田家第十四代当主

眞田 徹 様

講師 佐藤 健吉様

世田谷マジッククラブ

鈴木克彦 様

成田 進 様

井口 千代子様

### 3.3 来賓祝辞

#### ○ 上田市市議会議長

佐藤論征様

第36回総会の開催おめでとう  
ございます。お祝辞を申しあげ  
るとともに、皆様にお会いでき  
たと嬉しく存じます。ふるさと行政  
からは5名で参りました。いま昔  
平では会場の雰囲気はたびたび活  
況が戻りつつあり、かつての8割  
ほどではあります。長野国体も予  
定されておりグラウンドも整備中

イタリアチームの来賓も準備進行  
しています。

山家神社では昨年9月18日に  
御柱祭があり、これには地元ボラ  
ンティア若人が活躍してくれて大  
いに盛りあげられました。今後もこ  
れからの活動を応援していただき  
たい。

これまでの有線放送は採算面か  
ら閉局となりましたが、これに替  
るものを希望される方々の声も多  
いので、知恵をしぼっております。  
みなさまの御健康と、貴会ます  
ますの発展を期待しております。

#### ○ JA信州うえだ眞田地区

理事 宮崎 早苗様

わたくしは眞田町の庁舎ができ  
たころから横尾に住んでおり、こ  
とのほか皆様のふるさとに親しみ  
があります。この町の出身方々と  
こんなに離れたところでお会いで  
きるなんて思わずうれしくなりま  
した。きょうは仕事の手をやすめ  
てまいりました。みなさまの育つ  
た懐かしい山川、そして農の話し  
に楽しい時間を過ごしたいと思っ  
ております。めだたい場所にお招  
き下さり本当にありがとうございます。  
おわりに宮崎様から「眞田町の  
歌」の独唱が披露されました。

眞田地域センター長

田中昌彦様

東京眞田町の会のみなさま、  
第36回総会の開催を祝し、

乾杯

おめでとうございます。

### 3.5 宴会と催し

Wi Fiで YouTubeの映像などをス  
クリーンへ流しつつ、そぞろ立ち  
話があちこちで始まりました。皆  
さん、もう我慢できず、来賓みなさ  
んと、また会員相互に健康を祝い  
ました。

#### 「アトラクション」

世田谷マジッククラブから三氏  
鈴木勝彦様、成田進様、井口千代子  
様による披露がありました。演示  
があくと「何がでるか・・・」とヒヤ  
ヒヤ、アララ不思議フシギ・・・と静  
かに、ときにワーツと盛りあがっ  
たひとときでした。

#### 「ア・カップペラ」

この分野で造詣の深い萩原啓治  
理事から無伴奏独唱が披露されま  
した。

残り少ない時間をぬって久しぶ  
りにカラオケを楽しみました。

### 3.6 閉会の挨拶

理事 一之瀬和夫

ご来賓および会員の皆様、一年  
に一度の場は大いに盛りあがって

《広告欄》

## 有限会社 千曲美装

一般社団法人 優良リフォーム支援協会会員

代表取締役 宮下 毅

〒386-0015 長野県上田市常入 1-7-104

Tel 0268-23-7896 Fax 0268-23-7813

e-mail t\_miyashita@chikumabiso.co.jp



悩む前に  
相談して  
良かったわ!!

アパート、マンションから  
一般住宅までリフォーム・  
メンテナンスの全てをお引き  
受けいたします。  
お気軽にお声かけ願います。

おりますが、終焉もそこに迫っております。

ご来賓のみなさま、本日は誠にありがとうございました。お帰りの道中はくれぐれもお気をつけください。(15時終了)

☆ 総会への出席会員22名

(敬称略・順不同)

一之瀬 和夫 大日向

岩崎 みち子 菅平・正木

大久保 あき子 菅平・川上

荻原 啓治 四日市

川上 秀盛 菅平

小林 栄子 菅平・川上

坂口 英一 真田

坂口 典和 真田

柴田 小夜子 菅平・市村

杉崎 壽三男 菅平

鈴木 邦子 横尾・鈴木

野村 勝太郎 大日向

長田 ムネ子 真田・矢島

宮島 光男 横尾

山口 元彦 横沢

川上 今朝信

― 傍陽(7名) ―

上ノ山勝信 三島平

小林 正子 下横道・堀内

関 弘吉 中組

萩原 清人 萩

深町 共榮 田中・山岸

堀内 寿美 上横道

八木 五郎 中横道

〔原稿〕依頼 2023年10月5日、入稿同年12月6日

会員皆様の近況(注)

(敬称略・旧姓・出身区)

1 石巻哲夫(曲尾)

おかげ様で元気にやっております。役員の皆様どうぞがんばってよろしく願います。

2 一之瀬和夫(大日向)

(1) 本会の現況は①新入会員なく、②役員交替も同、従って本会の状況はいわずもがなです。

(2) 今後は積極的にふるさと上田会との連合ならば前向きにみたいものです。その中で、丸子会と武石会方々との新しい輪をつくりましょう。

(3) 連合へ寄与することで視野が広がると思います。①まずいろいろ催し物に参加する機会が増えるでしょう。②企画への積極参加もできそうですので、新しい友も期待できそう。新見見が得られるようプラス指向で。

3 岩崎みち子(正木・菅平)

一年間、本当に早いものです。コロナも少しずつ減っておりうれしく思います。生活も平常にもどりました。生活も浅草は大変

な人で大丈夫かと思う事もありましたが、自分から気をつけてすごしています。

4 上ノ山勝信(堀内・三島平)

前から会員でしたが総会出席は初めてです。顔見知りの方がいるかどうか不安ですがよろしくお願います。

5 荻原啓治(四日市)

健康第一、音楽と共に毎日を楽しく過ごしております。

6 加賀見昌子(山本・横沢)

長女の中島玲子と申します。本人は高齢となり、昨年末、老人ホームに入居致しました。加齢に伴い、外出や読み書きが困難となりました。そのため、申し訳ありませんが、本年度をもちまして退会とさせて頂きたく存じます。今まで大変お世話になりました。ありがとうございます。

7 金子 誠(傍陽田中)

役員および会員の皆様へ…突然で申し訳ございません。在籍中は大変お世話になりました。85歳の高齢に伴いこの度退会を決意いたしました。

8 川上年美(宮崎・菅平)

5月に娘の方に引越しすることになりましたので欠席にさせていただきます。

ただきますのでよろしくお願います。

9 神田幸雄(横尾)

役員の皆様、会の運営ご苦労様です。考慮の末、第35回をもって退会させていただきます。東京真田町の会の益々のご発展を祈念申し上げます。

10 小林栄子(川上・菅平)

お世話になります。いつもありがとうございます。

11 小林重利(入軽井沢)

体調思わしくなくありませんので、欠席させて頂きます。ご参集の皆さんによりしくお伝え下さい。

12 鈴木光人(横尾)

体調不良につき退会の通知を致します。

13 小林正子(堀内・下横道)

お陰様で趣味や運動、ボランティア等をして元気にしております。会員の皆さん高齢となり、員数が少なくなっておりますが、続けて下さっている事に感謝しております。

14 坂口英一(真田)

毎日、元気で働いております。

15 坂口典和(真田)

美しかなわが郷は空紺碧に雲光り

四阿烏帽子の峯高く

洗馬神川の水清し

松尾天白山城に



六連銭に威を張りし

かの真田氏のゆかり跡

「真田中学校歌」から改めて故郷の良さ、友を思う。第5期卒業

16 佐藤昌江(柳沢・菘)

友達が一人一人と居なくなっています。本当にさびしくなります。皆様お元気で会いたいと思います。そしてお話をしたいです。楽しみにしております。よろしくお願ひ致します。

17 椎名巳津男(山口・横沢)

謹啓 いつも真田会のご案内感謝申し上げます。今年ほど考えておりましたが体調が思わしくなく残念に思っております。役員の皆様そして会員の皆様にくれぐれもよろしく申し上げて下さい。謹白

18 塩沢春江

大変お世話になりました。本年三月三日、夫和政は死去致しました。こよなく長野を愛し、ずーっと長野の想いをよせていました。是非もう一度皆様にお会い出来ればと思いましたが、残念乍ら出来ませんでした。お世話様でした。

19 塩沢雍子

長い間お世話になりました。夫塩沢英巳、令和4年11月に亡くなりましたので、ご報告いたします。皆様のご健康をお祈り申し上げます。ありがとうございます。

20 柴田小夜子(市村・菅平)

皆様の参加を心よりお待ちしております。

おります。

21 清水民子(上原・曲尾)

お世話になります。清水民子の長女でございます。母は本年より施設に入所致しました。長らくお世話になりましたが、次年度より退会させていただきます。

今までありがとうございました。また、本年度会費は4月11日払込みさせて頂きました。よろしくお願ひいたします。

22 杉崎壽三男(菅平)

コロナ禍より開放され、久しぶりに皆様方と再会できることを楽しみにしております。

23 鈴木郁夫(横尾)

役員の皆様、ここ2、3年のコロナ禍の中、大変ご苦勞様です。コロナも最近の状況からこのまま治まる事を願うばかりです。実は、私、昨年末にうつかり陽性になり、一週間程自宅待機をしましたが、幸い熱・セキも軽く、軽症ですみしました。まだまだ安心出来ないと思ひますので皆様も気を付けたいものです。

24 鈴木邦子(横尾)

理事の皆様ありがとうございます。年齢と同じく体の方も機械と同様で、あちこち故障が出て参ります。そんなわけで出られる時は出来るだけ参加しようかと心がけております。

25 塚田加代子(宮崎・横尾)

春の彼岸に真田に行きました。雪が残る北アルプスと春めいた山々がこの時期はむかえてくれる。有線電話が三月で廃止されると言うことで、あと10日あまりだとなった。生の声で放送するなつかしい有線を聞くことができました。

春の彼岸に真田に行きました。

雪が残る北アルプスと春めいた山々がこの時期はむかえてくれる。

有線電話が三月で廃止されると言うことで、あと10日あまりだとなった。生の声で放送するなつかしい有線を聞くことができました。

26 角田和美(清水・菅平)

役員の皆様いつもありがとうございます。お返事遅くなり申し訳ございません。体調がすぐれず欠席させていただきます。会報、しらかば通信、楽しみにしております。どうぞよろしくお願ひいたします。

27 長田ムネ子(矢島・真田)

役員の方々ご準備お世話様です。前回も参加させていただきました。がだんだん足、腰も弱くなり、今回は無理かとぎりぎり迄悩みましたが、皆様とお会いできるのを楽しみに日々歩いてがんばっております。よろしくお願ひいたします。

28 中村洋子(田中)

都合により、欠席させていただきます。傍陽の墓には、草とり年二、三回は息子達と行っていきます。

29 野村勝太郎(大日向)

今年ひさしぶりに参加出来るそうです。役員の皆様、ご苦勞様です。宜しくお願いします。

30 堀内耕吾(下横道)

恐縮ですが諸般の事情により退会させていただきます。長年の御厚誼有難う御座いました。しらかば通信、

《広告欄》

 <p><b>代行 ゆきむら</b></p> <p>長野県公安委員会認定第 273 号：代行保険完備</p> <p>代表 飯島 嘉夫</p> <p>TEL 090-1504-1196</p> <p>〒386-2202 上田市真田町本原 2749</p> <p>営業時間 20:00 ~ 3:00</p>	 <p>リンゴの <b>大松農園</b></p> <p>小玉のサンふじ・シナノスイートは、 2月末まで発送いたします。</p> <p>連絡先 〒386-2203 上田市真田町傍陽 3774-7 堀内 昭一 Tel.090-4017-3721 Fax.0268-75-3355</p>
--	--

ダボス、毎回親しく拝読させて頂きました。会の益々の発展を祈念申し上げます。

**31 堀内福(下横道)**

高齢につき東京真田町の会を本年度退会致します。長い間のご厚情に感謝申し上げます。

**32 堀内照美(上横道)**

2023年3月3日付にて会社を無事卒業しました。信州をはなれ約半世紀、これからは、健康に留意し、自分の趣味を楽しみながら、第二の人生を元気に過ごしていきたいと思えます。当日は、雑用があり、欠席させて頂いたきます。総会が盛会になりますことをご祈念申し上げます。

**33 堀内寅次(中横道)**

いつもご連絡ありがとうございます。私も82歳を迎えようとしており、残念乍ら欠席とさせて頂きます。ご盛会をこころよりお祈り申し上げます。

故郷真田町にも帰れず、さびしい気持ちですが心はいつも故郷を思い愛しています。ご盛会を心よりお祝い申し上げます。

**34 堀内敏夫(中横道)**

昭和48年4月に中横道の実家を出てから早50年。毎年何回かは帰省し義弟の紀男さんに手伝ってもらいに川原の畑にジャガ芋、長ネギ等を作っています。昨年の10月には、お米を分けてもらっている

八木伸夫さんの小父さん五郎さんに隣の畑でお会いしました。そのお元気なご様子に驚かされました。田舎には前の睦夫(ちかお)さん、裏の三重子さん、高齢になってもご健在でお会いする度元気をもらっています。出来る限り、毎年、田舎での野菜作りを続けていきたいと思っています。

**35 堀内寿美(上横道)**

いつも連絡を頂きありがとうございます。遅くなってしまい誠に申し訳ございません。皆さんとおあいしてお話できることを楽しみにしています。

**36 堀内博典(三島平)**

皆様には大変お世話になっております。しらかば通信「ふるさと便り」欄を見て、真田中学入学者が、78名しかいない、各地区小学校は50人以下。私の頃の中学は、7クラスもあったのに、と時代の変化と過疎化への寂しさを感じております。情報ありがとうございます。今後ともよろしくお祈り申し上げます。

**37 堀内 幸(下横道)**

人それぞれ異なりますが、加齢現象で足元の不安が体感される昨今です。今回も欠席しますが自宅近所の毎日のウロツキ、週一回のカラオケは続きますので心配ありません。

**38 宮島光男(横尾)**

役員の皆様、いつもご苦労さまです。素晴らしい自然に恵まれた真田の郷、いつまでも元気で活気のある場であって欲しいと願っています。

**39 八木五郎(中横道)**

施設勤め、往復徒歩(2,000歩)、低山ハイイク(休日)、自転車(初詣)成田山他房州路1日5、60km走っている。4月よりヘルメット着用(町内の防災用の白いヘルメット)で！体調は年一度の健康診断はクリアも身長が減って行くこと、情けねー！ヨ！事務局方々ご苦労様、よろしくお祈りいたします。

**40 柳沢郁政(戸沢)**

以前、真田町の広報誌を無料で送っていただいた時が有りましたが、久しぶりに帰郷した時に共有性が持てて良かったと思えます。

**41 柳沢弘敏(萩)**

高齢につき退会致したくお願いいたします。長い間大変お世話になりました。貴会の永続と皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

**42 柳橋米子(内川・下横道)**

母は、介護施設に入所しましたので退会をお願いします。長い間ありがとうございます。

**43 山口敬一(大日向)**

発行されている「しらかば通信」の印刷(特に写真)の改善を要請いたしたく。

本節末の(注1)で編集部から回答し

ておりますのでご覧ください。

**44 山口元彦(横沢)**

○現行の会則四条(平成14年改正)は、会員の範囲につき、(原則として首都圏及びその周辺地域に在住する)という居住地域による区画を定めているところ、今般提案された改正案はこれを除去しているが、そのようにしなければならぬ理由が全くしめされていない。○また、「会員の資格」の得喪に関する事項は会則事項であり、理事会には会員の資格を喪失させる権限はないから、これを細則で定めるのは越権行為といわなければならない。

○以上の理由で、改正案には反対せざるをえない。

**45 横山たか子(横沢・大畑)**

高齢で体調不良のため、退会します。

|| ||

令和4年度の五議案について書面表決の返信数は71通でした(締切4月21日)。このうち近況欄に記入された45通を記載しました。

**「原稿」入稿2023年10月26日**

(注1)「編集部より」ご指摘のところは同通信1ページ目で両袖の写真と解します。該図は「写真で見る日本」(昭36年10月、日本文化出版社)からの転載であり、当時の画質そのままであることをご了解いただきたい。「会員皆様の近況了」

## 東京真田町の会 会則

### (名称及び事務所)

第1条 本会は東京真田町の会と称し、事務所を会長の指定するところに置く。

### (目 的)

第2条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに故郷（ふるさと）との交流を深め相互の発展に寄与することを目的とする。

### (事 業)

第3条 本会は、第2条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 会報及び会員名簿の発行
- (2) 親睦会、講演会、懇親会等の開催
- (3) ふるさと訪問等必要な事業

### (会 員)

第4条 本会の会員は、上田市真田地域（略：真田地域）の出身者及びその関係者ならびに真田地域に興味をもち応援する人をもって組織する。

### (役 員)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 3名
- (3) 理 事 若干名（会計理事2名、監事2名を含む）

### (役員を選任)

第6条 役員は理事会に置いて会員の中から推薦し、総会において選任する。

- 2 役員任期は2年とし、再任を妨げない。

### (役員の仕事)

第7条 役員の仕事は、次のとおりとする。

- (1) 会長は本会を代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 会計理事は、会計を処理する。
- (4) 理事は、本会の重要事項の協議に参画する。
- (5) 監事は、本会の会計を監査する。

### (顧問・相談役)

第8条 本会に顧問及び相談役を置くことができる。

- 2 顧問は理事会で決定し、総会で報告する。
- 3 相談役は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
- 4 顧問及び相談役は、本会の重要事項について会長の諮問に応じる。

(会 議)

第9条 本会の会議は、総会および理事会とする。

- 2 総会および理事会は会長が招集し、その議長となる。
- 3 総会および理事会の決議は、出席者の過半数をもって決する。
- 4 総会は毎年1回開催し、会務報告、事業計画及び予算、決算等重要案件を議決する。
- 5 理事会は必要に応じ開催し、総会で決定する以外の重要事項を審議し決定する。

(部 会)

第10条 事業の円滑な運営を図るため、本会に部会をおくことができる。

(経 費)

第11条 本会の経費は会費・寄付金及びその他の収入をもってこれに充てる。

(会 計)

第12条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月末日までとする。

(会則の変更)

第13条 本会則の変更は、総会の議決を得なければならない。

(そ の 他)

第14条 本会則のほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この会則は、昭和63年9月10日から施行する。

平成14年6月16日改正

令和5年5月21日改正

細則

この細則は、理事会の決議によって定める。

1. 事務所

本会の事務所は、会長の指定した所在地とする。

〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽 825-7

2. 入会、会費及び会員資格

本会に入会しようとする者は年会費 1,500 円を添えて申し込むものとする。本人の死亡及び退会の申し出のあったとき、また理由なく3年以上続けて年会費を未納の者は会員の資格を失う。

3. 部会

部会は、会員居住地区別に設置し、また、必要に応じて出身地別に設けることができる。部会の運営は、本会会則に準じ、単独行事については、本会に報告するものとする。

4. 住所等の変更

会員は、住所変更があったとき、本会事務所に報告しなければならない。

## 令和4年度 会 務 報 告 書

### 令和4年

- 5月16日開催予定の総会・懇親会を10月30日に延期を決定
- 6月17日 上田ふるさと会統合に向けての話合い(上田会、真田町の会)  
第1回理事会(東京上田会事務所)  
・令和3年度の会務報告と決算報告、令和4年度の事業計画、予算案の審議  
・第35回総会(10月30日)についての審議し、開催内容の骨子を定める。  
総会開催時期が遅いため、しらかば通信29号(臨時)にて総会に諮るべき  
事項につき、書面評決を求めることに決定  
・しらかば通信29号の発行時期と書面評決の期日を決める。  
・その他、ふるさと会統合について審議。
- 7月5日 第2回理事会(Zoomにて行う)  
・第35回総会・懇親会の実施要項の審議。  
・しらかば通信29号発行について審議し、書面表決の審議事項を決める。  
第1号議案(令和3年度会務報告)、第2号議案(令和3年度決算報告)、  
第3号議案(令和4年度事業計画)、第4号議案(令和4年度収支予算)  
・第3回真田まつり参加内容を決める。
- 8月6日 真田まつり 金子会長、一之瀬理事、深町副会長が出席
- 8月10日 しらかば通信29号の発行
- 9月20日 書面表決の結果集計。
- 10月7日 東京上田会秋の集い 金子会長、深町副会長出席
- 10月10日 第3回理事会(Zoomにて行う)  
・書面表決の結果報告、返信65通中、全員が賛成  
・第35回総会・懇親会の実施要項の最終確認  
・日本ダボス35号の内容の審議
- 10月30日 第35回総会・懇親会開催(アルカディア市ヶ谷4階鳳凰の間)  
・出席者 来賓14名、会員17名  
・総会終了後、有志による総会・懇親会についての反省会をもつ。
- 11月6日 第40回上田真田祭り 金子会長、深町副会長出席
- 11月14日 第4回理事会(Zoomにて行う)  
・第35回総会・懇親会の総括
- 12月25日 日本ダボス35号発行

### 令和5年

- 2月12日 第5回理事会(Zoomにて行う)  
・第36回総会懇親会について審議(5月21日開催予定)  
・しらかば通信No.30号の発行について審議  
(第36回総会・懇親会案内を掲載)  
・会則改正について審議
- 3月17日 上田市名誉市民・金子宏氏市葬 金子会長参列
- 3月31日 しらかば通信No.30号を発行

## 令和5年度 事業計画

- ① 第36回総会及び懇親会の開催 (令和5年5月21日)
- ② 会報「日本ダボス」第36号の発行
- ③ 会報「しらかば通信31号」の発行
- ④ ホームページの運営
- ⑤ 会員相互の親睦をはかるため、関東圏の四季めぐりなどの見学会
- ⑥ 上田市の交流促進のため、ふるさと訪問の企画、真田まつり及び上田市の各種行事に参加、または特産物宅配に協力。

令和4年度決算報告書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

収入の部			支出の部		
科目	予算額/円	決算額/円	科目	予算額/円	決算額/円
年会費	160,000	127,500	総会懇親会費	400,000	308,365
上田市補助金	300,000	300,000	会報発行費	400,000	308,000
総会懇親会費	350,000	183,000	事業費	90,000	38,122
広告	130,000	100,000	事業通信費	45,000	64,799
寄付金	10,000	40,364	印刷費	25,000	11,360
利息	0	2	会議費	40,000	7,920
当期収入	950,000	750,866	渉外費	60,000	30,000
前期繰越金	149,852	149,852	交通費	50,000	17,880
収入合計	1,099,852	900,718	雑費	40,000	1,610
			予備費	56,672	0
			合計	1,206,672	788,056
			返還額		0
			次年度繰越金		190,618
			支出合計		978,674

上記の通り収支決算を報告します。

令和5年3月31日

会計 坂口典和 ㊟

上記の決算報告書は適正かつ真実であるものと認めます。

監事 荻原啓治 ㊟

監事 深町共榮 ㊟

令和5年度予算案

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

収入の部		支出の部	
科目	/円	科目	/円
年会費	140,000	総会懇親会費	450,000
上田市補助金	300,000	会報発行費	400,000
総会懇親会費	350,000	事業費	50,000
広告代	130,000	通信費	60,000
寄付金	10,000	印刷費	20,000
利息	0	会議費	20,000
当期収入	930,000	渉外費	40,000
前期繰越金	190,618	交通費	30,000
収入合計	1,120,618	雑費	30,000
		予備費	20,618
		支出合計	1,120,618

東京真田町の会役員名簿

令和5年12月1日現在

職名	氏名
会長・事務局長	深町 共榮
副会長	柴田小夜子
理事	監事 荻原 啓治
	会計理事 坂口 典和
	編集長 一之瀬和夫
顧問	坂口 英一
	小林 孝雄 山口 元彦 中島 正江

## 会則、細則の改正について

### 現行の第4条

第4条 本会の会員は、原則として、東京都、神奈川県、千葉県および埼玉県に在住する真田町出身者とその親族及び真田町関係者で、本会の趣旨に賛同する者をもって組織する。

### 改正案

第4条 本会の会員は、上田市真田地域(略:真田地域)の出身者及びその関係者ならびに真田地域に興味をもち応援するする人をもって組織する。

### 現行の「細則の2. 入会及び会費」に関する記述

本会に入会しようとするものは郵便振替にて年会費千円を振込み申し込むものとする。改正案では、これに会員資格を付加します。

「細則の2. 入会、会費及び会員資格」として、本会に入会しようとするものは年会費1,500円を添えて申し込むものとする。本人の死亡および退会の申し出のあったとき、また理由なく3年以上続けて年会費を未納の者は会員の資格を失う。

しらかば通信30号にて、修正案についての賛否を問うた結果は以下の通りです。

返信数 71名(電話も含む)、賛成 61名、反対 1名

東京真田町の会の

活性化に向けて

会長 深町 共榮

会長就任挨拶です。にふれましたが、当会の会員数が100名を下回ってしまいました。このまま減少が続くと、役員確保が難しく、数年後には会を解散することになります。15年前に上田市と真田町が合併したおり、このようなことを予測してふるさと会の存続を検討しておくべきでしたが、今からでも遅くはないでしょう。当面は、自治センターの協力を得ながら若手会員を増やす努力をしつつ、早急に会の運営を見直す必要があります。今年度の総会にて、会則の会員資格を、「真田地域に興味を持てる方」とし、入会者の窓口を広くしました。このため殿城出身者から入会申込みを受けています。

また、会の運営資金に余裕がない状態ですので、会費を現行の1500円から2000円に引き上げる必要があります。次回の総会に諮ります。現役員数で総会・懇親会、会報の発行をしています。ふるさと訪問等の企画がおろそかになっており、故郷との交流が薄くなっています。なんとか改善したいのですが困難な状況です。これらの問題解決として、上田市ふるさと会の本会と東京上田会(上田会と略す)との協

力関係を検討してみたいと思います。双方の行事に両会員が参加できるようにすれば、各種ふるさと訪問や関東圏における集いの回数も増やすことができ、会員へのサービス向上が期待できます。現在、上田会が発行している会報を、当会の会報に同封して会員に配布できるならば、故郷の動きを知る上で大いに役立ちます。さらに、両会役員の交流により、お互いの活動の場が広がり、上田市との連携も深まります。このような取り組みについて、これから上田会との話し合いをもってまいります。皆様方からのご意見を事務局までお寄せく

**JA 信州うえだ  
女性部真田支会**

〒386-2201  
長野県上田市真田町長 3893-1  
TEL0268-72-2300  
FAX0268-72-4032

ださい。

〔原稿〕依頼 2024 年 1 月 9 日、  
入稿同年 1 月 12 日

### 会員消息 (令和 4 年 11 月 1 日から令和 5 年 10 月 31 日)

#### (1) 住所変更

該当者はありません。

#### (2) 退会者 (敬称略)

長年、本会の運営にご協力いただきありがとうございます。

- 岩崎弘、加賀見昌子、金子誠、神田幸雄、塩沢和政 (逝)、塩沢英巳 (逝)、清水民子、辻さかえ、鈴木光人、福島愛子、堀内耕吾、堀内福、堀内秀夫、牧内泰男、柳沢弘敏、柳橋米子、横山たか子

#### (3) 入会者 ありません。

### 次回総会の予告

次年度の第三十七回総会及び懇親会を左記に開催する予定です。

開催日 令和 6 (2024) 年 5 月 19 (日)

会場 私学会館アルカディ ア市ヶ谷 (六階霧島)

会員の条件について、皆様にお願ひしていた会則改正の書面評決結果が第三十六回総会で披露されました。これによって現会員の家族や友人なども本会へ入会できるようにになりました。都会に住んではいるがさなだ出身でない方も本会の存在に関心を持ってくれる呼び水になることを期待してい

ます。現会員が積極的に周囲へ働きかけ、本会の存在を知ってもらう努力が功を奏すると思えます。

### 会費払込みのご案内

年会費一千五百円の払込みには、本会専用の「払込取扱票」で郵便局にて支払ってください。払込取扱票は、しらかば通信 31 号に同封されます。同票による振込手数料は本会負担です。ただし、現金による払込みでは、有料で 110 円の手料がかかります。

未納の過年度分も同票で払込みされる時には、「該当する年度と金額」を必ずご記入下さるようお願いいたします。令和 5 年度会費未納の方には、払込取扱票を同封しましたので、払込みをお願いします。

### 広告御礼

ダボス 36 号の発行にあたり広告掲載をお願い致しましたところ、多くの方がたからご協力を頂きました。厚く御礼を申し上げます。

### 編集後記

会員の皆様、会員の層を広げる努力を惜しまず続けましょう。

日本の構造的な特徴は 40 年前から指摘されてきました。人口動態への政策を積極的に議論することなく、また対策も打たず、核家族化する自嘲的表現が流行ったままここまで来ました。

エネルギー需給と経済活動から見て、農適地など利用可能な日本の

国土面積から推するに、先々の適住人口は現数値一億三千万のおよそ半分、すなわち六千万人程度でよい、というのが SDGs からみた値です (編集者の独断)。この人口数値に近い国として、現在のイギリスやイタリアがあります。

華に浸ったまま危機を予見できずに人口減を迎え (如蛙)、社会の基礎力維持に危機が訪れる。ふるさと会や同窓会などあらゆるところで人集めに窮し汗している状況になっていきます。でも、「規模縮小」とはこのような状況なのか、と受け入れてしまえば、逆に積極的に発想の転換をはかろう、との意欲が湧くのではないのでしょうか。

話しは全く変わりますが、ふるさと上田辺りにおける You Tuber の活躍ぶりはどうでしょうか。軽井沢にはだいぶ浸透しているようですし、とうみのぶどう園では、移り棲む芸術家が山麓ワインをまえるに弾きかたりを愉しんでいる姿が愛でられています。

地酒に恵まれて上田にも、コロナの酒興しが始まっているように嬉しい限りです。ビールやお酒をたしなむ人々が増えることを期待したいですが、低アル商品が山と積まれているばかりです。低アルの消費が上向いたからといってノンアルの方がたが間違えて通常濃度のものに手を出すようには

ならないでしょう。上田にも地ビール地ワインが盛んになって欲しいと考えていますし、迷い込んだら出られなくなった、そんな呑兵衛街ができたら愉快ですね。60 年ほど前の上田にはそのような街姿がありました。それには提灯バスが十時ごろにも走って欲しいですね。ワイン通りなどが賑わえばインバウンドも増えそうです。上田は学生の街としても恵まれ、別所線の復興ではその学生さんたちが大活躍してくれました。

国内移住は人口増に影響を与えません。見方を変えて外から日本への永住希望者に力点を移しましょう。それはなぜか、①日本に住むことを決めた方たちは母国の友人らに向けて日本および上田さなだを宣伝してくれます。② Y T により多言語で発信される情報読者は広範囲にわたります。③ 交換留学生制度の設置や外国語を母語とする大学教員を採用するための基礎力になります。他市町に先んじて、うえだが先陣を切り Y T の支援に注力していただきたいと考えます。

〔能登半島地震〕<sup>6</sup> 2024 年 1 月 1 日 16 時 10 分頃震度 7.6 が発生、翌 2 日の 17 時 47 分頃、羽田空港滑走路上で、ANA 旅客機と能登へ発つ海上保安庁機が衝突し、炎上しました。

お手元へ本誌のお届けが遅れて申し訳ありません。(一之瀬和夫記)

祝 東京真田町の会 第36回総会・懇親会模様その2、令和5年5月21日



はじめ  
音楽スタジオ 肇

お問い合わせ (荻原)

090-8442-2317

keiji-1214-ogi@docomo.ne.jp

http://ameblo.jp/music-studio-hajime



中野区中野 2-12-12 勸業ビルB1F

JR中野南口より徒歩3分

小学社会 5 (令和5年版・裏表紙) :  
上田市殿城<稲倉の棚田>



教育出版



# 祝 東京真田町の会

- 会報 36 号 -



第36回総会・懇親会模様その1



信州うえだ真田幸村の里「秋映」が店頭に！10月28日、神奈川のリニア新幹線駅橋本（予定）から2kmほどの距離にあるMarketYaokoでのこと。店頭の産地表示は長野県産、その脇の箱を何気なく返すとうえだでした。店長にお願いして空箱をそのまま頂戴しました。



くらしによろこび創りませんか  
**信州うえだ農業協同組合**  
代表理事組合長 眞島 実

〒386-8668 長野県上田市大手2丁目7番10号 TEL0268-25-7800 FAX0268-25-7820

日本ダボス 令和6(2024)年1月25日発行  
発行者 東京真田町の会 会長 深町 共榮  
発行者住所 〒366-2203 長野県上田市真田町傍陽 825-7, Tel & Fax 0268-75-3886  
編集 一之瀬和夫(編集長)、深町共榮(会長、事務局長)  
印刷 上田市住吉：精巧堂(株)アオヤギ印刷